

第 47 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	上島ゼミⅡ	チーム名	バクスター
タイトル	AI の進歩と雇用		
テーマ群	a)理論・情報 e)産業・企業		
メンバー			
研究計画内容	<p>(研究概要)</p> <p>あなたは、「自分の代わりにロボットに働いてほしい」と思ったことはないだろうか。工場での単純作業の場合、ロボットは人間よりもはるかに効率よく働く。よって、人間が労働をするよりもロボットを利用の方が社会の厚生が増すのかもしれない。今日では、人工知能 (artificial intelligence、以下 AI) とよばれる人間の脳の働きをするソフトウェアやシステムが発達し、これを組み込んだロボットが作業を行うことが現実になりつつある。つまり、人工知能 (AI) の登場により、自ら見て考えて判断する「人間の役割をする機械」が現れ、多くの分野で人間の代わりに働いてくれるのだ。</p> <p>しかし、人間の雇用がほとんどなくなったら何が起こるだろうか。人工知能 (AI) の登場で企業の利益が増える一方で、労働者の仕事は失われて大量の失業を生むのではないか。人口が減少傾向にある現代社会において、AI は労働の効率化・省人化やコスト削減を通して我が国にメリットをもたらす救世主なのか、それとも予想外の大量失業と賃金停滞をもたらし、消費と投資を減少させる悪魔なのかを検討する。</p> <p>(研究目的)</p> <p>技術と雇用の関係を歴史的、経済的に整理し、今我々はどのような時代に生きているのかを明らかにする。</p> <p>(研究から期待される成果)</p> <p>過去の産業革命となぜ「今度は違う」のか、大量失業と格差の拡大に対してどのような政策が有効なのかを、企業などへのインタビューを通して明らかにし、今後の雇用動向と有効な対策を提示する。</p>		